

2011 SUPER GT Rd,5 吉田広樹 〈サマースペシャル 鈴鹿サーキット〉

今回は真夏の鈴鹿サーキットでシリーズ最長となる500キロを競う過酷なレースでした。また前回の菅生に引き続き横溝選手にも加入していただき、メルビン選手と共に3人で戦うこととなりました。横溝選手の加入により菅生ラウンドからの改善点や、このレースに向けてのフリー走行の組み立てやタイヤの選択なども含め、細かいところまでミーティングを重ねレースウィークを迎えます。

8月20日 フリー走行 DRY

週末の天候は崩れる予報でしたが、曇り空の中フリー走行が開始されます。前回の菅生のマシンバランスを参考に持ち込みセットを変更してきたので、その確認と予選に向けたタイヤの選択も含めてまずは横溝選手にアタックしてもらいます。そこでいきなり2'06.534というタイムを刻み、トップに躍り出ます。その後はすぐに私にドライバー交代し、バランスの確認を行うべくコースイン。しかしセッションは赤旗中断となり、計測できずピットへ戻ります。この赤旗でフリー走行の時間が短くなったため、私もNEWタイヤに交換し、そのまま予選に向けたシュミレーションを行うこととなりました。セッ

ション再開と共にコースインし、アタックを開始。計測2周したところで各コーナーでのオーバーステアを改善するためにセットを変更し、再度アタックを開始します。しかしここでスピンドルを壊してしまい、すぐにコースには復帰したもののタイヤにフラットスポットを作ってしまった。この後はメルビン選手に交代し周回を重ねてもらい、セッション終了間際に再度セット変更したマシンの確認の為、私がコースインします。路面コンディションに合わせたマシンセッティングも確認でき、予選に向けたセッティングも見えてきたところでフリー走行が終了。最終的に横溝選手の出したタイムは更新されることなく、チーム初となる公式セッショントップタイムで予選を迎えることが出来ました。しかし、私が壊したタイヤは再度予選のシュミレーションを行う予定だったため、スケジュール変更をしなければいけなくなってしまいました。これが予選本番だった場合、次の予選セッションや決勝レースまで影響を与えてしまうため、私個人としては大きな課題が残るフリー走行となりました。



<NO.1>

2011 SUPER GT Rd.5 吉田広樹 〈サマースペシャル 鈴鹿サーキット〉

公式予選 DRY

今回の予選はロックダウン方式だったため、まずは3人とも基準タイムをクリアした後に16番以内に入ることが次の予選セッションに進むための条件となります。予選セッション開始と同時にまずは私がコースインします。計測1周目に3番手となるタイムを記録し基準タイムをクリア、メルビン選手にドライバー交代します。ここからメルビン選手が周回を重ねていたのですが、ヘアピンでコースアウトしてしまい、スタックしてしまいます。セッション終了間際にピットに戻って来たため横溝選手に交代し、残り4分のタイミで再度コースインしたのですが、エンジンのトラブルが発生し周回することなくコースサイドにマシンを止めることとなりました。その結果予選はクリアすることが出来ませんでした。主催者の判断により決勝は予選通過車両の後ろからスタートすることが許可され、22番手グリッドからレースを戦うこととなりました。



8月21日 決勝レース WET→DRY 18位

迎えた決勝日は朝から雨が降り続ける中、フリー走行がスタートしました。前日のトラブル原因も解決し、まずは横溝さんの走行からスタート、WETセッティングの確認をします。決勝時もWETが予想されたためセッティングを変更し、メルビン選手にドライバー交代して周回を重ねてもらいます。今回は特に長いレースなのでWETやDRYと極端に偏ったセッティングではなく、どのような天候にも対応しやすいようなセッティングへと変更しました。そしてセッション最後にもう一度横溝選手へとドライバーを交代し、アタックしてもらった結果2番手でWETのフリー走行を終えることが出来ました。フリー走行終了後ミーティングを行い、横溝選手、メルビン選手、最後に私という順番でレースを戦うことを決めましたが、天候は一向に回復する気配がなく、レース中にもルーティーン以外のタイヤ交換などが予想される難しい天候の中、シリーズ最長となる500キロのレースがスタートしました。スタート直後の天候は、雨はほぼ止んでいたもののWET路面でのレースとなります。横溝選手の追い上げでスタート直後の3周ほどで18位までポジションアップ。しかし、ここからライン場だけどんどん路面が乾くという難しいコンディションへと変化していきます。私たちのマシンはレインの深溝タイヤを装着していたため、一気にタイヤへの負担が大きくなり、ペースを上げること

2011 SUPER GT Rd.5 吉田広樹 〈サマースペシャル 鈴鹿サーキット〉



が出来なくなってしまいました。そこで当初予定していた周回数よりも早めにピットインし、メルビン選手へとドライバー交代。ここからメルビン選手にコンスタントに周回を重ねてもらい、DRYタイヤへと交換するタイミングを見ていたのですが、他車のクラッシュによりセーフティーカーが入ります。チームはこのセーフティーカー明けに私へ交代することを選択したのですが、まだDRYタイヤでの走行は難しい天候だったため、再び深溝のWETタイヤでコースに復帰します。復帰直後はペースも良く1台をオーバーテイクしたのですが、3周目にはグリップの低下を感じ一気にペースが落ち始めます。必死で水の多いところなどを選んで走行するのですが、グリップダウンは収まらずストレートさえもまっすぐ走るのが難しい状況となってしまいました。当初は2回ピットで走りきる予定だった

ので30周以上のステイットを想定したのですが、路面コンディションもDRYへと変化していったので16周を走行した時点でピットインし、再び横溝さんへと交代しました。このタイミングでDRYタイヤに交換し最後の追い上げを期待したのですが、マシンバランスが左と右のコーナーで違う動きをするため中々ペースを上げることが出来ない状況となってしまいました。上位チームに比べて1回ピットも多くなってしまったこともあり、最終的に18位でのチェッカーとなってしまいました。

今回は天候に合わせたタイヤ選択が上手くいかなかったこともあり、ピットの回数も多くなってしまいマシン本来の速さを引き出せませんでした。さらにマシンバランスが崩れてしまったことなど、次戦に向けて解明しないといけない課題も残ったレースとなってしまいました。けれども経験豊富な横溝選手の加入もあり、フリー走行などでは確実に速さも見せるマシン、チームとなってきていると思います。後はそこをしっかりと結果に繋げられるようにチームみんなで課題を共有し、次の富士に挑みたいと思います。シーズンも残り3レースとなってしまいましたが、確実にチームみんなで前進していきたいと思います。それでは引き続きご指導、ご支援宜しくお願い致します。

Thunder Asia Racing
吉田 広樹



<NO.3>